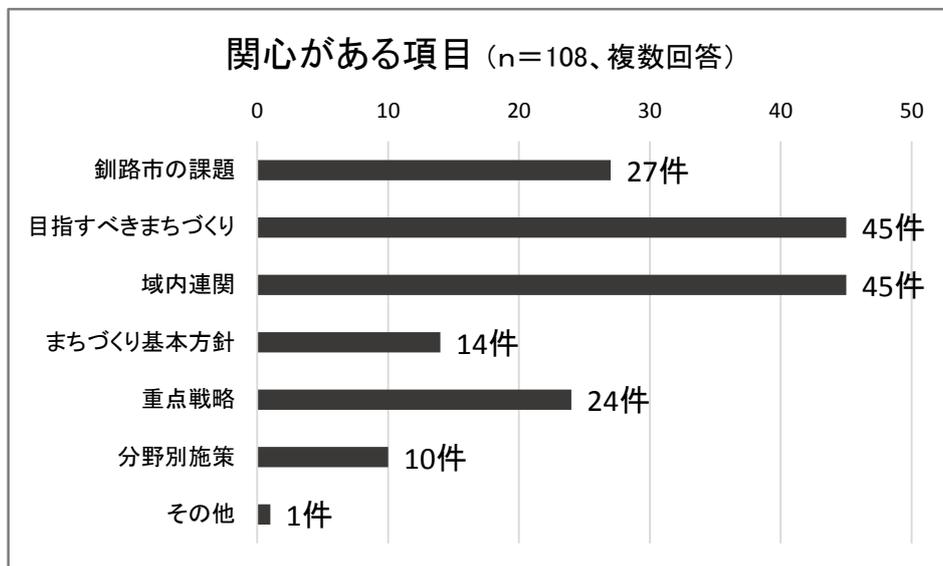


釧路市まちづくり基本構想シンポジウム 来場者アンケート結果報告書

名 称	釧路市まちづくり基本構想シンポジウム ～つながる まち・ひと・みらい～
開催日時	平成29年10月10日（火）13：30～16：00
会 場	ANAクラウンプラザホテル釧路 3階 万葉
参加者数	283名
回収数	113枚（回収率40%）

1 まちづくり基本構想のどの部分に関心がありますか。（○を付けてください）

- (1) 釧路市の課題 (2) 目指すべきまちづくり (3) 域内連関
(4) まちづくり基本方針 (5) 重点戦略 (6) 分野別施策
(7) その他



関心がある理由 53件

※ 主なもの

(1) 釧路市の課題

- ・ 人口減少、若者の流出等の問題をかかえながら、釧路市の発展があるのかを知りたい。
- ・ 市の課題について、中長期的にどのように取り組んで行くのか関心がある。

(2) 目指すべきまちづくり

- ・ 豊富な自然と資源を利用した街、障がい者・高齢者の住みやすい街、他市とは違うユニークなまちづくりが出来ればよい。
- ・ 釧路市の将来についてできる限りの助力をしていきたいと考えている。

(3) 域内連関

- ・ 酪農業に従事しているが、観光関連の人や街の人との交流があまりない。協力や交流をして地域産業として確認して欲しいし、地域の強みにしていきたい。
- ・ 人口減少が進む中、地域のつながりや信頼関係が、より重要になると考えるため。
- ・ 個人として、サークル等に入りそこで色々な年代の人達とコミュニケーションを図り、つながることが域内連関かと思った。
- ・ 初めて聞いた言葉であり、実際の進行状況等で知りたい。

(5) 重点戦略

- ・ 経済活性化をあげている点に共感が持てる。
- ・ 課題を解決していくためには、具体的な戦略、施策が重要だと思うため。

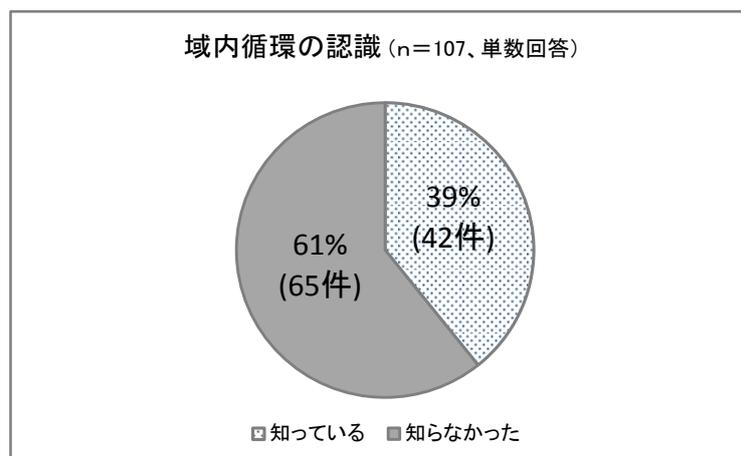
(6) 分野別施策

- ・ 大まかな施策だけではなく、それぞれの分野の具体的な施策を知る方が具体的なイメージがわくから。

2 釧路市が取り組んでいる「域内循環」を知っていましたか。(○を付けてください)

(1) 知っている

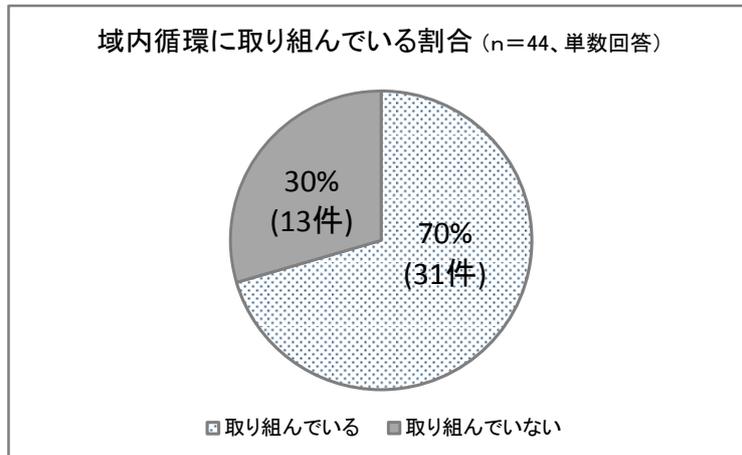
(2) 知らなかった



3 2で「(1) 知っている」と回答した方にお聞きします。普段の暮らしの中で「域内循環」に取り組んでいることがありますか。(○を付けてください)

(1) 取り組んでいる

(2) 取り組んでいない



取り組みの具体例 28件

※ 主なもの

- ・ 地元のお店で買い物をする。
- ・ 仕事上の発注を地元の業者をお願いしている。
- ・ 産地に気を配り、釧路産など地元の魚や野菜を買うようにしている。
- ・ 地域の製品の良さやおいしさの情報を、提供したり収集したりしている。
- ・ 町内会活動や老人クラブ活動を大切にしている。
- ・ 地域の人々との交際、行事に積極的に参加するようにしている。
- ・ ごみステーションの見回りを欠かさず行っている。

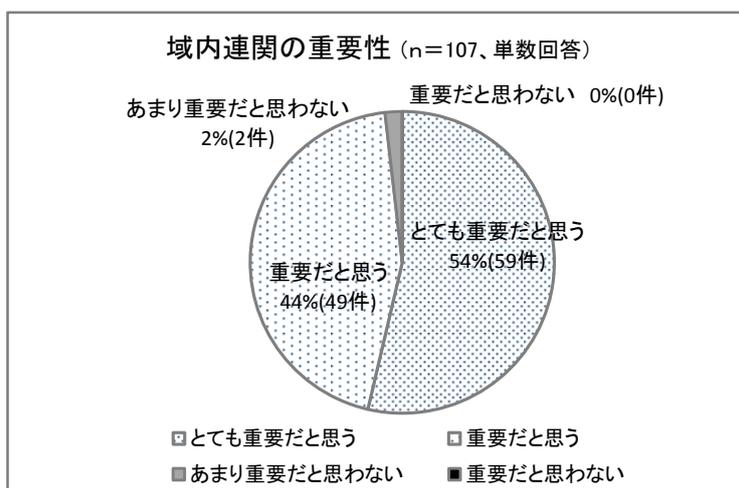
取り組んでいない理由 7件

※ 主なもの

- ・ 何をしたらいいのかわからない。
- ・ 仕事では取り組まざるを得ないが、日常の中で意識することがないため。
- ・ 価値が高いと思われるもので域内で生産されているものが少ない。

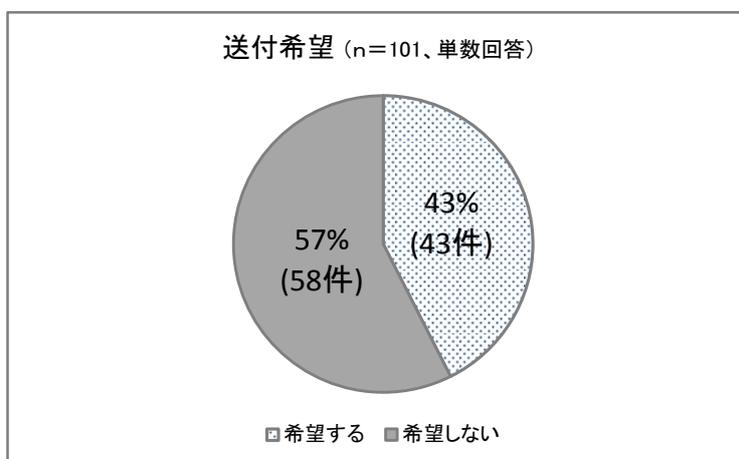
4 まちづくり基本構想に書かれている、地域の人・モノなどのつながりを強める考え方「域内連関」についてお聞きします。本日の説明を聞いて域内連関の考え方を重要だと感じましたか。(○を付けてください)

- (1) とても重要だと思う (2) 重要だと思う (3) あまり重要だと思わない
 (4) 重要だと思わない



5 まちづくり基本構想の送付を希望しますか。(○を付けてください)

- (1) 希望する (平成30年4月頃予定) (2) 希望しない



6 まちづくり基本構想や釧路市のこれからのまちづくりについてご意見やご提案を自由にお書きください。

自由記述 68件

※ 主なもの

(1) まちづくり基本構想について

- ・城内連関をキーワードとするなら、具体的な施策を提示し、各分野で市民の活動を励起していくと良いと思う。
- ・説明を聞いて、間違えた方向を向いていないと感じた。ただ、結論はよいとして、各論になったときにどうしてもうまくいかない責任をどこかに押し付ける、という風潮が末端に残っているように感じている。目標、目的を見失わず、みんなで力を合わせて頑張っていかなければならない。
- ・城内循環は重要だが、だまっても貨幣は地域を回らない。貨幣の分断する力に対し「地域連関」という考え方は面白いと思う。ただ残念なのは地域連関の中身が詰められていないこと、具体的にどうすることが連関を強めるのか、それを考えずに貨幣の循環に横スベリしているという印象を受けた。
- ・市民代表・学議経験者・市役所が充分議論された「まちづくり基本構想」については、目指すべき目標は明確になったが、今後どう具体化し色々な施策を行っていくのかが重要ではないか。特に、市民と協働してどう行っていくか重要になるのではないか。
- ・このまちづくり基本構想のことをさらに多くの人に認知してもらう必要があると思う。市のHPだけでなく、SNSなどを使った広報活動に取り組むなどもある。
- ・このようなシンポジウムで示すだけでなく、市民に配布するなど広報をしていかないと意味がない。人口が少ないからこそ地域力を上げていくことが重要で、逆にそこで他の地域に勝てるのだからこそ、広報が重要だと感じる。
- ・釧路市が抱える課題について多くの市民で共有し、それぞれができることに取り組んでいかなければならないと思う。様々な機会を利用して発信していただきたい。
- ・地域のつながりやテーマ・目標を共有することが重要という話が多かったと思うが、地域がこれを共有していくためにも、もっとかみ砕いた表現で一人ひとりに発信、伝えていかななくてはならない。共有することができず、地域が繋がっていけないと思う。
- ・まちづくり基本構想を実現させるために、地域連関という考え方は必要不可欠だと感じた。この考え方を市民に広く周知し、当事者意識を持ってもらうために、あらゆる機会を使って知ってもらう努力が必要だと思う。釧路に魅力を感じている人が増えているように、釧路には大きなポテンシャルがある。
- ・まちづくりのビジョンをどのような形で市民一人ひとりに理解してもらうかが重要であり、その方法をよく研究してほしい。

- ・地域連関の理解は難しいと思う。市民に広く浸透させるためには、イメージだけでなく、具体的な説明が必要と考える。
- ・市民へのアピールをもう少し検討しては。取組を知らない市民が大半ではと思う。
- ・従来の総合計画と今回のまちづくり基本構想との違いについて、もう少し詳しく知りたい。
- ・域内循環と地産地消の違いを詳しく知りたい。
- ・域内循環について、閉鎖的なイメージがあったが、域内連関の話を合わせて聞くと未来が明るくなるシステムだと感じた。
- ・地域の連関を一流とするのか、慣れ合いとするのが大切。とても未来を感じる提言なので、競合と力をつけることを考えながら、地域が力をつけないと子供が世界基準で育てられないと思う。社会全体のキーワードに「鍛える」も必要と感じている。大手の力も借りてほしい。特に若い世代への所得の向上が域内連関の力となる。

(2) 人づくりについて

- ・まちづくりは人づくりをベースにすべきだと思う。家庭で楽しい家づくりというものを考えた時、住んでいる人の心が明るい。親・兄弟とのコミュニケーションが良くとれている。子供が親孝行であるし家のために良く手伝う。親(釧路)のために地域のために良く尽くす(ボランティア等)。こんな家庭が増えたら街は住みやすくなりますし観光客が来たら積極的に、あるいは良いもてなしの心で見つめ、時には手を差しのべる等。また、学校や職場では良い人間関係を築くことを通して、心の風通しの良い職場・学校・町内会作りにつながり発展していくのではないかと確信している。
- ・人的な連関となれば、大学や高専の卒業生が専門的な知識を生かした活躍の場はもっとあるのではないか。釧路市には釧根のリーダーとして頑張ってもらいたい。
- ・釧路市ばかりではなく、全国的に人と人のつながりが近年薄くなり、在住地域や市内で種々の行事に参加しているが、数十年前より高齢者も子供やその親にしても、物事に責任感もなく、だれかが行くだらうといったような、何事にも参加せず、個人的な楽しみ方として楽しい事のみ参加しているように感じる。これからは信頼関係も良くなり、今より輝かしいまちづくりに関心を持っていただけると良いと思う。

(3) 郷土愛について

- ・食と文化、自然の豊かさを子供達に教育し、愛着を持ってもらうべき。自慢できるふるさとであるべき。
- ・郷土を愛する心が足りないため、釧路市民の意識改革が必要。「釧路市」の名前をもっと多方面に宣伝し、知名度を上げて欲しい。海産物、観光地、野生動物等々、色々な方法があると思う。
- ・釧路市民に愛着が有るかどうかを問うのはナンセンス。日本人に日本が好きかと問うのと同じ。

(4) 若者について

- ・若者の転出が多いとのことだったが、現状の釧路はどちらかといえば老人に対してのサービスが多く、若者に対するサービスや質の良い職場環境が少ないと感じる。域内連関の理念のもと若者にも優しいまちづくりを行ってほしい。
- ・若者がこの街に留まることが必要。そのためには「まちづくり」の中に高校生、大学生の声を聞き入れる仕組みの構築が大切と考える。
- ・今ある産業の強化プラス新産業への支援、若い人達が働き、活躍する場をしっかりとつくる。
- ・若年層の雇用づくりが第一、若い人が帰って来たくても仕事がないという現状をなんとかしなければ。きれいごとではない。
- ・通勤バスで学生が2人分の席を独占している。これは釧路だけ。教育すべき、恥ずかしい。
- ・若い世代の流出が問題となっており、その主な原因は「仕事がない」とのことだが、それに対しての解決も地域とのつながりが大事なんだと思った。ぜひ、もっと積極的に取り組んでほしいと思う。ずっと釧路にいて釧路に就職をした人より、一度外（釧路市以外）に出ていった人や、釧路市以外の人のほうが釧路の良さを知っている人が多いと思う。離れないようにすることも大事だが、離れて戻ってくるような環境づくりも大切なのではと思った。
- ・若年層が釧路を離れる現状、理由を調査し、それを少しずつでも解消していくことが人口減少の軽減につながると思う。「人」が少なければ資源を生かせないと思う。
- ・釧路を出た人から、なぜ戻らないのかを聞き取りすることも大事。高校生までの満足度が重要だと思う（スポーツ、遊戯施設、学習施設、ハイソな地域など）。中学生までは、スポーツや公園、教育（習い事）など。
- ・豊かとは選択肢が多いことではないか。釧路で不便に感じるのは選択肢が少ないからだとは思う。それが若者の流出の理由だと思う。

(5) まちづくりとの関わりについて

- ・釧路市の花であるキンレンカを植える活動に関わっている。自分でも植えてみて釧路地方の風土に合うことを実感。市内各所での広がりを見せており、キンレンカを通じたまちづくりの可能性を強く感じている（“花”に限定されない人のつながり、意識等）。
- ・釧路市に移住し、現在町内会で地域の近所の皆さんと声をかけ合いながら安全、安心なまちでありたい一心で活動している。私達のまち「くしろ」を愛し、誇りを持って発信すること、また、地域の中の多くの人（人材）がネットワーク化し地域コミュニティが機能することこそが肝要と思う。特に次世代を担う若年層の人が積極的に地域に関わる仕掛けづくりを行政が強力にけん引力を発揮していただきたい。
- ・地元金融機関に勤務しており、職員は地元出身者が多く、それぞれが釧路市の将来に不足を持っているところであり、今後も釧路市に役立つ活動について協力していきたい。

- ・町内会の会員もだんだん高齢化しているため、若い人の力、世代交代が必要だと思う。若い人がどのように釧路を思っているのかも知りたい。
- ・これまでも実施してはいると思うが、行政と市民等との協働がより必要な時であると思う。行政の各セクションと関係のある市民、団体、企業とより密接な形で取り組むことが重要。

（６）釧路の良さについて

- ・釧路には湿原があり、どんなテーマパークよりも素晴らしい。春採湖には珍しい小鳥もいて、もっと釧路の自然、そして美しいことを色々な形でアピールしたらと思う。
- ・道外の人に夏の涼しさをアピールすべき。住んでみたら快適なまちである。
- ・釧路のイメージはスパカツやザンギではない。やはり、魚介類や「ろばた」である。

（７）経済活性化、交流人口の増加について

- ・まちづくり基本構想の「エンジン」を担うのは、観光振興だと思う。観光で稼ぎ、域内連関に充たさせながら、構想内の各領域の事柄を推進させていく。その一連の活動の中で、自身や所属企業が貢献できるか。域内連関の中の「主体」のひとりとして考え、行動していきたい。今後、構想を実行していくことが重要だが、何か1つでも2つでも「おもしろいこと」を率先して行い、さらにフォロワーが増えてくれるような好循環が生まれればよいと思う。
- ・人・金・物・知恵の全てが大都会へ向かう中で、地方都市を守るためには、何より地域経済の活性化が必要。そのためには多くのアイデアも必要だが、それよりも、1つの実行してくれる企業の確保が必要であり経済界の最大の協力が大切。産業経済に活力があれば、他のまちづくりの基本方針は自ずと実現されると思う。都心部ににぎわいが再生されれば、市民の気持ちも良い方向になるのではないか。また、観光は産業として、あまり過大評価すべきものではないと考える。
- ・観光・スポーツ大会等、外から来られる方へのサービス心が足りないと思われる。具体的には、リピーターには釧路市の名産品をプレゼントするとか、スポーツ合宿でも同様にできるといいと思う。日本全国からどんどん釧路市を訪れる方が増加することで地域の活性化を目指してほしい。
- ・今日歩いてこの会場に来た。幣舞橋には大勢の外国人観光客が歩いて写真を撮っていた。MOOの中も外国人観光客でにぎわっていて驚いた。クルーズ船が入港しても北大通が閑散としていて、もっとにぎわうようになることを願っている。私が子供の頃は北大通に本当にたくさんの人が買い物に来ていて楽しかった。もっと買い物ができる場所がほしい。

（８）広域的な取組について

- ・経済の域内連関を強化するには、釧路市のみならず、釧根の地域自治体、経済団体の広域的な連携が必要。
- ・域内循環として、管内でまかなえないものを「釧根圏と連携」するとしており、その実例を示して

ほしい。

- ・道東の周辺市町村との連携が重要だが全くできていない。釧路湿原を活用したエコツーリズムを大いに進めるべき。
- ・釧路の経済が小さくなるのは避けられない。「外から稼ぐ」は大切と感じる。観光、冷涼を生かす取組をさらに強化し、海産物の加工、販売し、1次産業で終わらせない利用を釧路から発信する。
- ・域内関連も大切かと思うが、それが目的となると域外とどう関わっていくのかがより大切ではないかと思う。日本の中の北海道の中の釧路の立ち位置を明確にし、どのようなまちを目指すのか。観光都市、産業都市など道東の拠点としてのあるべきまちの姿に踏み込めば良いと思う。特に、将来育てられた人材が定着しなければいけないと思うことから、雇用の場の創造が課題だと感じる。
- ・なぜ「域内」関連なのか。大切なのは「域内外」の関連ではないだろうか。

(9) 都市としてのまちづくりについて

- ・街＝箱物（建築物）ではなく、ゆとりあるスペース・空間を設け、人が思い、考え、豊かな人・心がつくられる街・釧路となる「まちづくり」を目指して欲しい。
- ・財政的な課題はあると思うが、先を見据えて必要なところはしっかりお金をかけて改善を図ってほしい。中途半端なことをすると全て無駄になってしまう。駅の高架化、北大通の再開発等は総合的に構想を立ててほしいと思っている。
- ・コンパクトなまちをつくるのが大切ではないか。車社会かもしれないが歩いてまちを散策することも無いのが現実。釧路の中心はどこか、だから分散してしまっているのではないか。
- ・釧路市の目指すまちづくりについて、モデルとなる都市（国内、海外を問わず）を例示すればよりわかりやすくなるのではないかと思う。外から人やモノ・金を受け入れる取組が必要。
- ・魅力的なまちとはどのようなまちなのか、それは何かの仕組みなのか。私は、札幌市から釧路市に移ったのだが、最初に感じたことは不便であること。何をすることも無秩序に広がった釧路では不便にしか感じなかった。それは交通機関との連携があまりできていないなどがあると思う。

(10) その他市政への要望など

- ・防災、減災に対して、関係機関の連携が不十分だと思う。
- ・大津波が来たら、釧路市は消滅するかもしれない。対策は急務。
- ・東北海道で一番な都市が釧路だと思う。そして涼しく寒いため、東京などからIT関連の企業などを呼び込む。釧路空港もあるので行き来もしやすい。元炭鉱関連などの土地、空き家が増えているので、そのようなところを特区とし企業受入先としてPRしていく。釧路市として本州の修学旅行生の受入、遠足・職業体験での地元小・中学生の受入。酪農・漁業・農業の連携が必要。
- ・釧路市のまちづくりにおいてハード的な部分が見えてこなかった。（釧路市中心部のまちづくり構

想、人が集まるような商店街の配置、人が集まれるような駐車スペースづくり、メイン商業施設の構想、観光施設の構築、かかりつけ医など医療施設の確保)

- 釧路でもインターネットを利用した買い物ができるとよい。調べものをしている時には、本をインターネットで検索してそのまま購入することが多い。市内の書店でも書店に行かず検索、購入できるシステムがあると、地域循環をより実践できると思う。あとはブランド服の取扱が必要かと思う。
- 共働き世帯への支援、子育て、働く環境づくりを重視すべき。
- 防災面での釧路駅の高架化、輸送・観光につながる釧路港のフェリー誘致、釧網線、花咲線での観光列車の充実により、沢山の人的交流が生まれてほしい。
- 人口増の取り組み、特に社会人口増のため、企業誘致に重点を置くべき。
- 価値観の多様性は意識して認知していかなねばと感じている。昔に戻る、あせらずその中で改革しながら対応していけばいいと思う。